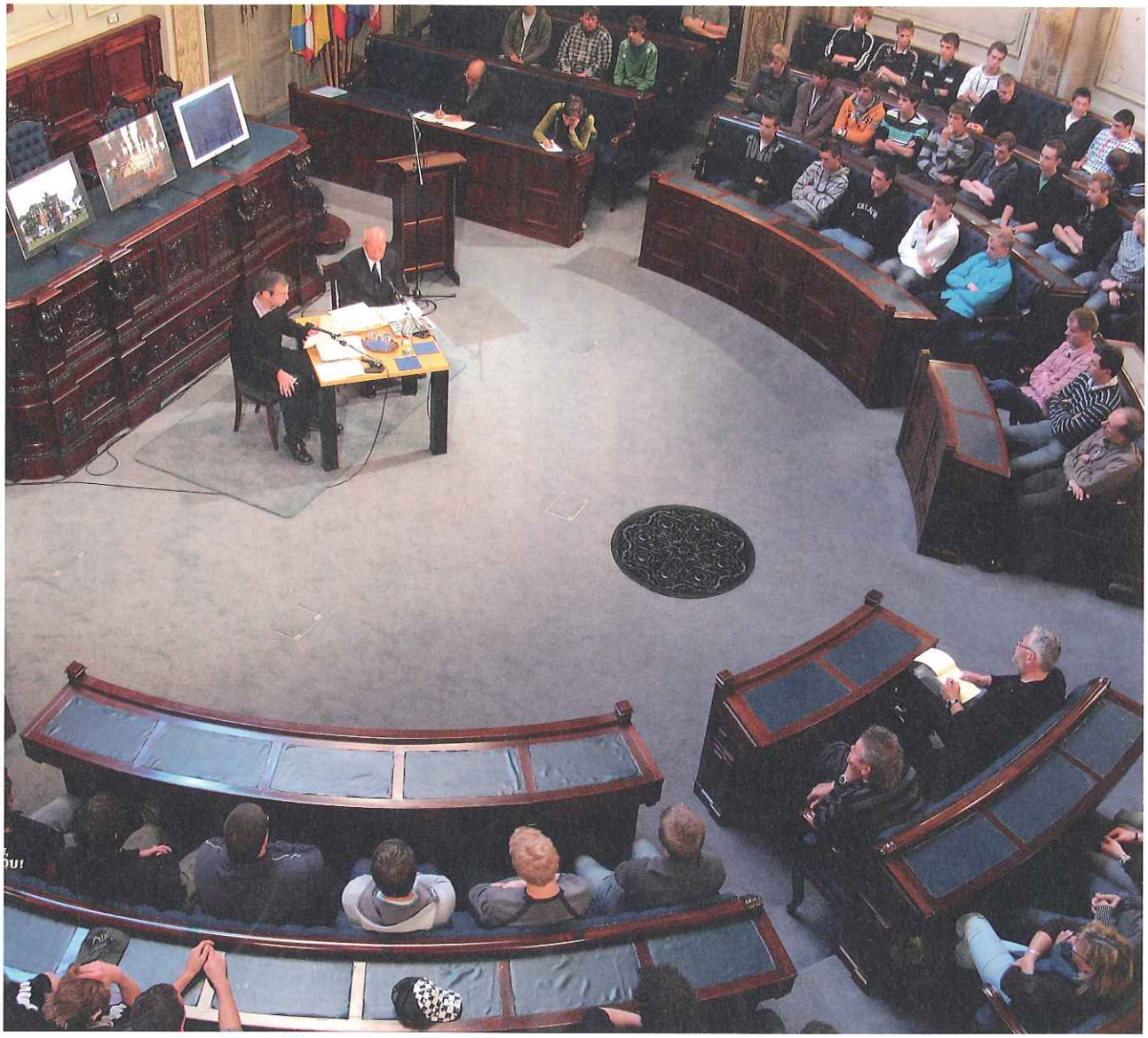
ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

120号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町７番８号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
http://www.peace-wing-n.or.jp

■国連軍縮週間「市民のつどい」・財団設立25周年記念プレイベント ■海外原爆展開催
■財団設立25周年記念事業のごあんない ■アグネス・チャン講演会 ■TOPICS



松添博さんの被爆体験講話に聴き入るベルギーの高校生
平成20年10月１日（水）アントワープ州市立平和センター（ベルギー）にて

国連軍縮週間「市民のつどい」を開催

国連軍縮週間中の10月25日（土）、第26回目の「市民のつどい」を開催しました。今年も長崎県地域婦人団体連絡協議会や活水高校平和学習クラブ、各部会員の協力により当日は多くの市民で賑わいました。

戦時食コーナー

戦時下の乏しい食糧事情を理解してもらい、平和の尊さを考えてもらおうと始められた戦時食は、食材や味付けも現代風のおいしい「だんご汁」となり、用意した700食余りは、1時間ほどで完食となりました。

このコーナーは、第1回目から県地婦連の方々を中心に協力をいただいて始められました。4年前からは、活水高校の平和学習クラブのみなさんも婦人会のお母さん方と一緒になって炊き出しから配膳までと忙しく立ち回り、支えてくれています。

折り鶴コーナー

平和大行進を終えた人たちや、通りかかった観光客も、国際交流部会員の呼びかけに応じてみなさん懸命に折ってくれました。

また、たまたま立ち寄った外国の方々も折り紙に興味を示し、行事の目的を説明する部会員の流ちょうな外国語にうなずきながら、慣れない手つきで千羽鶴に挑戦しているほほ笑ましい姿も見られました。

行事参加者の手によって折られた折り鶴は、今後部会員の手により、千羽鶴として仕上げられ、核兵器保有国の指導者や世界の平和運動団体に贈られることになっています。

原爆被災写真展

今年も原爆被災写真が、写真資料調査部会員の手により展示され、平和大行進の参加者や外国人も立ち寄り、部会員の説明に耳を傾けながら見学していました。

また会場の一角には、平和案内人の方々が自主活動として取り組んでいる、紙芝居コーナーも設けられました。

演奏と合唱

会場の一角では、舞台装置や音響装置も整っていない屋外という悪条件の中ながら、日頃の活動で培った音楽部会員による、平和を願う歌や演奏が行われ、訪れた人々を和ませてくれました。

チャリティーコーナー

毎年子どもたちに大人気の、わたがしとポップコーンのチャリティーコーナーには、今年も平和大行進に参加した学童保育やボーイスカウトの子どもたちが一挙に押しかけ、担当した事務局のスタッフはこのあと3時間あまり、わたがしやポップコーンをつくる機械と子どもたちの間で奮闘することになりました。しかし、お菓子を手にした時の子どもたちの無邪気な笑顔を見て元気づけられていた一幕もありました。

市民のつどい
同時開催

財団設立25周年記念プレイベント

シンポジウム「アジア青年平和交流事業の歩みと成果」

平和推進協会は平成21年度に財団設立から25周年を迎えますが、そのプレイベントとして追悼平和祈念館でシンポジウムを開催し、これまでのアジア青年平和交流事業の参加者をパネリストとして招いてアジアの若者同士の平和に向けたネットワーク構築について具体的に議論しました。

パネリストの方々に感想文をお寄せいただきましたので、ご紹介します。

韓　景棹（ハン・キョンド）さん（韓国）

平成16年にアジア青年平和交流事業に韓国代表として参加したことがきっかけになり、今回のシンポジウムにも参加をすることができました。普段から長崎をたびたび訪れているので、故郷を訪問するようなリラックスした気持ちで来ることができました。

第一日目は、関係者の方々やマレーシア代表団と打ち合わせをしてから、食事を終えてホテルに帰りました。二日目のシンポジウムの当日は、午前中にリハーサルを終えて、屋外で開催されていた平和に関するイベント（市民のつどい）を見ることができました。一般市民や子どもたちを対象に原爆に関するいろいろな資料や戦争当時の食べ物などを用意して平和の大切さについてそのメッセージを伝えていました。「やっぱり日本だな。」という気がしながらも、一方では、幼い時からこのような教育を受けることで自然に平和に関する大切さを徐々に分かるようになるようで羨ましかったです。そして、このような事業に参加することができるようになった自分も胸がいっぱいになってきました。

午後はシンポジウム本番で、最初は少し緊張しましたが、気持ちを落ち着けて集中してシンポジウムに臨むことができました。積極的な発表や意見がいろいろ行き交って普段分からなかった他の国の情報や人々の平和に関する認識を感じることができました。少し議論する時間が足りなくて残念でしたが、これから我々若者が何をすべきかという明確な課題を得てシンポジウムを終えることができました。三日目の長崎ユースネットワークとの交流会を最後に公式的な日程は終わりました。

平和活動に直接取り組んでいる人たちと交流する中で、自分が何か口先だけで「平和が重要だ。」とこれまで言っていたようで反省しました。シンポジウムでも発言しましたが、現在仕事として取り組んでいること（社員研修コンサルタント関係）を土台にして、平和に関して積極的な活動をこれからやっていこうとあらためて決心しました。最後に今回私にこのような意味深い経験を与えてくださった長崎の関係者みなさんにお礼を申し上げます。

Mohd Ikbal（モハメド・イクバル）さん（マレーシア）

まず、このような素晴らしいプログラムに招待していただいた長崎平和推進協会のご厚意に対しまして心から感謝申し上げたいと思います。皆さんが長崎で私に与えてくださいました知識や経験は、満開の桜を見るように常に新鮮なものでした。マラヤ大学を代表いたしまして、日本の、特に長崎の学生の皆さんが交流のためにマレーシアを訪れられる際には、心より歓迎させていただきたいと思っています。

今回長崎を訪れるのは２回目でしたが、私にとってこの街は第二の故郷のようなものです。もっと長崎に滞在できたならと祈っていましたが、残念ながら、時が過ぎゆくのを変えることをできないのが私たちの宿命です。今回長崎を訪れる前は、最初に訪れた２年前とどう変わっているだろうかと少し心配していましたが、長崎に降り立った時、この素晴らしく、平和な街長崎は少しも変わっていないことに気づきました。また、わずか１週間の滞在でしたが、今回あらためてアメリカが落とした原爆による被害の実相を知ることができました。

お互いに知識を深め、理解を図ることがマレーシアと日本の関係を強化するために重要であると思いますが、今回のプログラムは、その意味で大変有意義であると強く感じました。個人的な考えですが、このようなプログラムは、すべての若者に相互理解を深める機会を提供するためにも継続されるべきであります。来年のプログラムが、今年よりさらに充実したものになり、そして、このプログラムを通じて、将来核兵器のない平和な世界を実現できればと願っています。来年、またこのプログラムに参加するために長崎に帰ってこられることを祈っています。（原文は英語、事務局にて翻訳）

海外原爆展をアントワープで開催！

追悼平和祈念館では、その設立の趣旨を踏まえて、被爆60周年を迎えた平成17年度から被爆の実相を広く世界に伝えるための「海外原爆展」を実施しています。

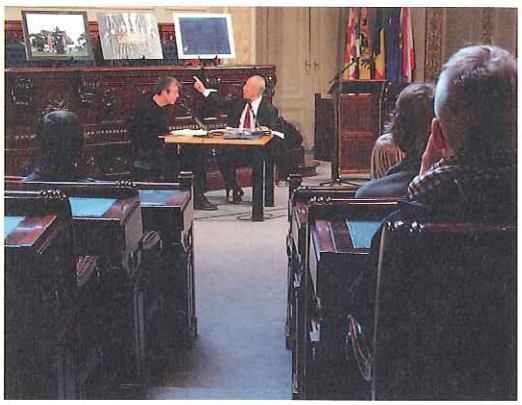
4回目となった今回は、ベルギーのアントワープ州市立平和センターで10月2日から12月12日まで開催しました。

今回の原爆展では、現地の子どもたちに被爆者の生の声を伝えて、原爆や戦争のこと、そして、未来の世界のことを自分の力で考えてもらうために、日程の許す限り被爆体験講話を数多く実施しました。

現地では、平和センターの職員をはじめとする多くの関係者の方々が、いろいろと力を尽くしてくださったおかげで、とても素晴らしい原爆展を開催することができました。この原爆展を機会に、一人でも多くの人に平和のことを考えてほしいと思います。

●被爆体験講話

継承部会長の松添博さんが650人の聴衆（開会式以外はおもに地元の高校生）に対して3日間、延べ7回にわたり被爆体験を語りました。



高校生の前で講話を行う松添さん

松添さん自身が描いた絵画や振袖の少女の像の写真などを交えた講話をみなさん興味深く聴いており、講話の後は当時の街のようすや放射能の影響、アメリカに対する思いなど数多くの質問が寄せられました。また、この講話は、原爆展の会場である平和センターに聴衆を集めて行ったため、松添さんの講話を聴いたあと、被災資料や写真パネル、松添さんが描いた絵画などの展示物を見つめながら、お互いに感想を話し合っているようすが見られました。

●開会式

10月1日に開催された開会式にはアントワープ州副知事や在ベルギー日本国名誉総領事をはじめとする現地の方々や在ベルギー日本国大使館公使など大勢の来賓の出席のもと、盛大に行われました。

式では、被爆体験講話のほか、松添さんによる展示物の説明やレセプションなどのセレモニーが行われました。

来賓にパネルの説明をする松添さん

開催地紹介

アントワープ市（ベルギー）

人口48万人を抱えるベルギー第2の都市で、アントワープ州の州都。オランダとの国境に近く、市民の間ではおもにオランダ語が使われています。

第2次世界大戦中には、ナチスドイツからV2ロケットによる爆撃を受け、大きな被害を受けました。

現在では、ダイヤモンドと芸術の都として知られており、市内にあるノートルダム大聖堂には「フランダースの犬」で有名なルーベンスの絵画があります。

アントワープ州市立平和センター

州が運営主体となっており、国内外の団体との交流を通じてさまざまな企画展をアントワープに誘致することをおもな事業としています。

建物は、数百年前に司祭が使用していたものをそのまま州が引き取り、ビルを増設して2003年から使用しています。

ＥＵ情報センターも兼ねており、市内の子どもたちを招いてＥＵ代表模擬討論を行うなど子どもたちへの教育も盛んです。

アントワープ市での海外原爆展

継承部会　松添　博

今年の4月、祈念館の内田館長から9月末ごろ10日間の予定でベルギーに一緒に行ってくれないかと話があったときには、一瞬驚き、そのあと内心この年齢で大丈夫だろうか考えた。その後、依頼を引き受けはしたものの、実際のところは心配しながらの出向であった。

しかし、ベルギーのアントワープ市で被爆体験講話を始めてみると、来場した高校生と相対し、その態度を見てこの国の人々がいかに平和に真剣な国民であるかがわかり、この国で話ができたことをむしろ私の方が感動を感じた。ベルギーは世界平和市長会議において世界の中でもっとも加盟都市が多いことからこのことは当然かもしれない。会場には私が描いた7枚の原爆絵図も展示してあった。

開会式ではアントワープ州副知事や平和センター会長の挨拶があり、来賓には在ベルギー日本国大使館公使、在ベルギー日本国名誉領事やベルギー在住日本人会会長らが出席した。

講演会場はかつて市議会の議場として使われていた部屋で、中央の演台を半円形に取り囲むように階段状の客席があったが、中央の高い場所にある演壇からではなく、演壇の前の低い場所に机とマイクを置いて話をした。高校生らは日本では考えられないほど熱心に話を聴いてくれ、質問もさまざまな角度から活発に数多くしてくれた。会場では私の話の場面に合わせ、写真や絵を平和センターの担当職員が客席の全員に見えるように持って回ってくれた。質問の答えは通訳のニールさんが私の話をうまく通訳してくれたことで、皆よく理解してくれたものと思う。

ベルギーでは高校の授業で原爆や戦争のことをよく学んでいるとのことで、それはその真剣な表情から理解できた。高校生に対しては、全部で6回の講演をしたが皆同様であった。会場から退場する時、私は生徒たちの前に立った。すると彼らは次から次へと並んで私に握手をしてくれ、話を聴いたあとは、展示してある原爆関係の写真や資料を熱心に見学し、アンケートに感想を記入していた。

初日にはゲント大学生によるインタビューと撮影があったが、それは私たちの滞在期間中に会場などの都合により講話を聴くことができない学生に聴かせるために映像をビデオ化して各学校に配布したり、教材として使用するとのことであった。

終わりに内田館長が平和センター所長に対し、原爆展終了後は一部展示パネルを貸与するので来年以降、できれば毎年原爆投下の月（8月）に平和センターの一角に展示してほしいと要望したところ、よいことなので実現できるように検討したいとの返事があった。

来場者のアンケートから

松添さんの講話はとても興味深かった。
教室で本から学ぶより、被爆者の口から生で体験談を聞くほうがよい。
体験談を聴いた今、原爆のすさまじい威力が理解できた。
この展示会は自分たちの年代の学生にとってためになった。
展示されていた写真はショッキングだったが、それらの写真は爆弾が普通のものではないことを物語っていた。ひどく残酷な爆弾だ。
1945年、8月に何が起こったのかをたくさんの人が知らなければいけない。
この展示会がたくさんの国で開催されることで、原爆への意識を変えていけると思う。
これからみんな目を開いてほしい。

財団設立25周年記念事業のお知らせ

平成21年4月1日、協会は財団設立から25周年を迎えます

長崎平和推進協会は、昭和59年４月１日に任意団体から移行し、財団法人として設立され、平成21年４月１日には、この財団設立から25周年を迎えます。

設立当初から「小異を残して大同に集まろう」という精神のもと、官民一体となって、「核兵器廃絶」「世界恒久平和」の実現へ向けてさまざまな活動を行ってきましたが、その活動も四半世紀もの長きにわたって続けてきたことになります。

核兵器をめぐる世界の動きは、まだまだ厳しい状況ではありますが、協会のこれまでの活動を振り返り、また、今後の新たな平和推進の活動をどのように取り組んでいくかを考えていくため、財団設立25周年を記念して、次のような行事を企画しています。

記念式典・記念講演及びシンポジウム

日　時　平成21年４月18日（土）
会　場　原爆資料館ホール
おもな内容
- **記念式典**　午後１時30分～
  協会への貢献の深い個人・団体を表彰
- **記念講演**　午後２時～２時45分
  テーマ「被爆都市の市長として核兵器廃絶への思い（仮題）」
  講演者　田上富久長崎市長
- **シンポジウム**　午後３時～４時30分
  テーマ「私の平和活動の原点」

特に、田上市長の記念講演やシンポジウムは、興味深い話がいろいろと聞けるのではと思いますので、会員のみなさんもぜひご来場ください。

被爆体験継承シンポジウム

日　時　平成21年６月21日（日）
午後１時30分～
会　場　原爆資料館ホール
テーマ　被爆体験の継承をどうするか？
パネリスト　継承部会員、平和案内人、被爆二世、沖縄の戦争体験語り部から選出予定

25周年記念誌の発行

今までの平和推進協会が取り組んできた活動の記録、資料をまとめるほか、２回開催するシンポジウムの内容を誌上で紹介。
発行時期　平成21年度末（予定）

平和写真コンテスト

「被爆地長崎から核兵器廃絶と平和を訴える」をテーマに、原則として長崎市内を撮影した写真を広く募集し、表彰、展示します。
募集期間　平成21年５月～11月（予定）
応募資格　一般の部（プロ・アマ問いません）及び子どもの部（中学生以下）
入賞者発表　平成22年２月（予定）

財団法人　長崎平和推進協会　設立記念事業

日本ユニセフ協会大使

アグネス　チャン講演会
「みんな地球に生きるひと」

みんなで平和の輪を広げよう!!

㈶長崎平和推進協会は長崎市の関連団体として、みなさまの会費や寄付金で被爆体験講話や講演会など、平和の輪を広げるための活動をしています。会員の方にはバッジの進呈や講演会の優先入場、原爆資料館内書店の割引等特典がございます。ご希望の方にはパンフレットをお送りします。ご入会のお問い合わせは　電話**095－884－9922**までお気軽に！

●日　　時　平成21年 **2月6日(金)** 18:30～20:00（開場 18:00）

●場　　所　**長崎市民会館　文化ホール**

※駐車場に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

●申し込み　**入場は無料ですが、お申込みが必要となります。**

往復はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号をお書きの上、下記までお送りください。
（はがき１枚につき１名応募できます）

宛先　〒852-8117　長崎市平野町７－８
㈶長崎平和推進協会「アグネスチャン講演会」係

締切　１月20日（火）必着
※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
（協会会員の方を優先します。会員の方は必ず「会員」と朱書きしてください。）

●問い合わせ　㈶長崎平和推進協会事務局　電話８４４－９９２２（平日８:45～17:30）

TOPICS! へいわトピックス

継承部会に新たに２名が入会されました！

被爆体験講話など、今後の継承活動で活躍が期待されるお二人をご紹介します。

池田　早苗 さん（被爆当時12歳）

母と郊外の農家へ買出しに行く途中、爆心地から２㎞の屋外で被爆し、軽い火傷を負う。自宅（爆心地から800m）で被爆した姉、妹、弟５人は８月19日までに次々と亡くなる。一番下の弟は原爆投下から一週間後の８月16日に亡くなったが、母は寝込み、父も兄弟の看病で手が離せなかったので、この弟を自分一人で火葬した。このような悲惨なことがないように核兵器の廃絶と平和の尊さを訴えたい。

早崎　猪之助 さん（被爆当時14歳）

爆心地より1.1キロメートルの三菱兵器製作所大橋工場に勤務中、上司の指示で部品の修理をする別の技術ビルへ移動していたときに被爆し、反対方向に爆風で約14m吹き飛ばされたが、大きな柱に守られ、幸いにも生き延びた。指示した上司は即死していた。もし上司の指示がなければ、同じ場所で死んだはずで、32人中私を含めて２人だけが生き残った。原爆の怖さと平和の大切さを伝えたい。

祈念館入館者50万人を突破！

平成15年７月に原爆死没者を追悼し、永遠の平和を祈念する施設として開館した追悼平和祈念館の入館者数が10月15日に累計50万人を突破しました。

50万人目は修学旅行で継承部会の三宅レイ子さんの被爆体験講話を聴くために祈念館を訪れた唐津市の打上（うちあげ）小学校のみなさんで、内田館長から入館50万人目の認定証や記念品が贈られました。

11月30日、慰霊碑めぐりを開催

寒風の中、継承部会碑巡り班並びに平和案内人有志の案内のもと、長崎県防空本部跡「立山防空壕」から東本願寺長崎教務所の原子爆弾災死者収骨所「『非核非戦』の碑」までを２時間で巡りました。

「『非核非戦』の碑」の前では、長崎教区駐在教導の方から身元の判らない原爆死没者のお骨が収納された経緯の説明を受け、30人余りの参加者全員で黙祷を捧げ、慰霊と平和への思いを再認識しました。

会員数報告

平成20年11月30日現在

◎維持会員　1、262名
◎賛助会員　170名
◎臨時会員　9名
◎学生会員　7名

寄付者紹介

ありがとうございます

◎旧長崎県立高等女学校四十二期生有志一同　三十万円
◎柴田夏乃　五千円
◎匿名（５名）　合計一万円

（敬称略）

11月18日、協会事務局にて旧長崎県立高等女学校42期生有志の方々から30万円のご寄付をいただきました。財団設立25周年記念事業の準備などに使わせていただきます。ありがとうございました。

本紙は再生紙を使用しています。
平成二十年十二月三十一日発行
印刷　株式会社　昭和堂